※令和４年度以降入学生用

学校番号	1301

令和８年度　芸術科

教科	芸術	科目	工芸Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「工芸Ⅰ」　（日本文教出版）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・中学校で学んだ知識を活かしつつ身の回りにあるものの基礎的な技術、技法を学習します。
・普段何気なく使っている工芸品について理解を深め、「用」と「美」について真剣に考える機会を持ち、制作過程を体験することからたくさんのことを学び感じ取ってほしいと思います。
・いくつかの素材に触れることで様々な技法を学び、それを使って立体・平面作品の制作から技能や表現についてバランスよく学習します。
・学習の到達度は、授業で配布するワークシートや提出作品で評価します。
・課題の完成に向け、積極的に取り組もうとしているかを授業態度やワークシートで評価します。

2　学習の到達目標

工芸の幅広い活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり工芸を愛好する心情と生活を心豊かにするために工夫する態度を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現や工芸に関する技術などの能力を伸ばし、工芸の伝統と文化についての理解を深めるために次のとおりの目標を目指す。

【知識及び技能】
　素材の特性を理解し、用途に合わせた技術、技法を用いて積極的に創造的な工芸の活動に取り組むとともに必要に応じて、道具を使い分け、自分の感性や知識を活かして表現する。

【思考力、判断力、表現力等】
　造形的な良さや美しさ、表現とは何か、また、工芸の働きなどについて考えたうえで、自分の価値意識をもって制作に取り組むことができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】
　主体的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、日常生活と工芸との結びつきを考えるとともに、工芸の伝統と文化に触れることで生活や社会を心豊かにするために工夫できるようになる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・対象や事象を捉える造形的な視点などについて理解している。 ・創造的な工芸の制作をするために必要な技能を身につけるとともに、扱う材料や用具の特性を活かし、表現方法を工夫している。	・造形的な良さや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きなどについて考えを深め、工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めている。	・工芸や工芸の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現しようとしている。 ・工芸的な観点を持って表現や鑑賞、創造的活動に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
ステージ１	オリエンテーション	授業の決まり 内容説明 教材配布	b:説明を受け、指示通りに教材等に記名し適切に収納できた。 c:授業の決まりや流れを積極的に理解するよう取り組めた。		提出ﾌｧｲﾙ	提出ﾌｧｲﾙ
	レタリング	書体とその表現効果 レタリング練習プリント 名前のレタリング制作	a:書体について知り、その効果について理解するよう取り組めた。 a:レタリング技術を習得できた。 b:文字の美しさや面白さを積極的にデザインに取り入れようとした。	ﾜｰｸｼｰﾄ 提出作品	ﾜｰｸｼｰﾄ 提出作品	
	表札	彫刻刀の練習 下書き通り木材を削る 文字が目立つよう色を付ける	a:色彩効果について理解しようと取り組めた。 b:独自の発想でアイデアを表現できた。 b:主体的に発想して構想を練り、制作方法を理解したうえで、創意工夫して表現しようとしている。 c:作品完成に向けて主体的に取り組めた。	ﾜｰｸｼｰﾄ 提出作品	ﾜｰｸｼｰﾄ 提出作品	レポート
ステージ２	籐かご（バスケタリー）	かごの大きさ、材料の長さと本数の関係について知る 米字組みを学ぶ 目的に合わせて立ち上げる形を決める	a:籐を素材としたかごを製作する過程で、籐の特性を理解し、用途と美しさの調和を考えることができた。 b:手順や技法などを吟味するなど、創意工夫して制作している。 b:日本の伝統的な表現のよさなどを活かして制作の構想を練っている。 c:素材の特性を理解したうえで、積極的に制作に取り組むことができた。	ﾜｰｸｼｰﾄ 提出作品 観察	ﾜｰｸｼｰﾄ 提出作品	提出作品 観察

※令和４年度以降入学生用

	染色（ステンシル）	切り絵の技法を理解する 染めの技法を理解する 布へ印刷する	a:染めの技術を理解し、繰り返し模様を用いるなど創意工夫をして制作している。 b:日本の伝統的な表現のよさなどを活かして制作の構想を練っている。 c:生活や社会を豊かにする工芸の働きについての理解を深め工芸的な観点を持って表現している。	ﾜｰｸｼｰﾄ 提出作品 観察	ﾜｰｸｼｰﾄ 提出作品	レポート 観察
ステージ３	木製タオル掛け	鋸の使い方 彫刻刀の使い方 木材を切る、削る	a:木材の特性を理解し、用途に合わせた道具、技法を用いて積極的に制作に取り組むことができた。 b:自分の感性や知識を活かし、効果的に表現することができた。 c:自分の作品の内容に沿った表現方法を選択し、作品の効果を高めることができた。	ﾜｰｸｼｰﾄ 提出作品	ﾜｰｸｼｰﾄ 提出作品	レポート 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度